



二学期に期待すること



仙台育英高校が東北勢として初めて甲子園で優勝を遂げてから一夜明け、2学期が始まりました。昨日の甲子園の決勝戦をテレビ観戦していた人も多かったのではないかと思います。試合後に監督が「宮城の皆さん、東北の皆さんおめでとうございませう」と目に涙を浮かべながら話したのが印象的でした。仙台育英の野球部は、「日本一のチーム内競争」という目標のもと甲子園優勝を目指してきたそうです。コロナ禍で入部人数を制限したとはいえ、部員数は82名。そのうちベンチに入れるのは18名。仲間でもありライバルでもある部員同士の日本一の切磋琢磨があったのだと思います。監督は、その様子をつぶさに見て選手を起用したのでしょう。そうやって、最高のチームを作り上げたのだと思います。紫波三中も、各部や学級・学年で、先生やコーチと共に、そんなチームを目指してほしいと思いました。

2学期も、生徒達には様々な挑戦の機会が溢れています。日々の学習はもとより、地区駅伝や全日本合唱コンクールを皮切りに、新人大会や地区中文祭、県中文祭などで、他校の生徒と競い合うことは、自分達の力を確かめる良い機会になるでしょう。その時、自信を持って本番に臨み、思う存分力を発揮する姿を見せられるよう、日々の取り組みを充実させてほしいと思います。三中のみんなも、仲間であると同時にライバルです。私が生徒達に期待するのは、互いに「伝え合い、響き合い、高め合う」こと。一人ひとりが主体的に取り組み、力を合わせることで、それがチームを強くします。一人の力が「0」や「マイナス」でない限り、その数が増えるほど、みんなの力は大きくなっていきます。夏休み中に活動した特設駅伝部・特設合唱部が良い例です。各部や学級・学年でも、メンバーの力が足し算や掛け算になっていくようなチームを目指し、誰一人取り残さないチームづくりに励んでほしい。それが2学期の紫波三中に、私が期待することです。

昨晩は夏休みの最後の夜でしたが、過ぎゆく夏を惜しむかのように、秋の虫が盛んに鳴いていました。もうひと月半もすれば、田んぼに立てた案山子に赤とんぼがとまり、稲刈りになります。教室に歌声が響くにつれて、野山も色づいてゆくでしょう。やがて木々の葉が落ち、山に雪が舞い始めれば、いよいよ受験シーズン突入です。そうやって、時は否応なく流れていきます。その中で自分の力を試す機会が訪れた時、後悔の言葉を並べるよりも「事前にやるべきことは全てやった」と言って挑戦する人を目指してほしい。それが冬に力を蓄え、明るい春に力強く芽を出し、花を咲かせられる人の生き方です。特に3年生は、来春までを見据えてこの2学期を過ごしていくことになります。日々の小さな努力の積み重ねで、自ら未来を切り拓いてほしいと思います。

2学期の主要行事

8/25	地区駅伝	11/2	県立高校入試事務保護者説明会
27	リサイクル活動	4	盛岡地区中学校文化祭 (3学年合唱発表)
28	全日本合唱コンクール岩手県大会	7	芸術鑑賞教室
9/1	私の主張紫波地区大会(映像審査)	9	紫波西学園授業参観 (秋のあずまネカフェ)
8	岩手県中学校英語弁論大会	15	紫波西学園公開研究会 (研究指定1年次プレ公開)
13	はばたき賞表彰式(総合文化部)	25	岩手県中学校文化祭 (2学年ステージ発表)
14-15	地区新人大会	12/2	日野市「たきび祭」三中米販売・日野四中交流会 (後期生徒会役員2名・校長参加)
19	IBCこども音楽コンクール	21-23	期末三者面談
10/1	紫波町芸術祭合唱奏楽部門	26	終業式
8	三中祭		
20	生徒会役員選挙		
25	1年被災地訪問・2年職場体験・3年防災学習		
31	紫波第三中学校60周年記念式典(R3から延期開催)		